



大原台

〒891-1393 鹿児島市宮之浦町862

TEL: 099 - 294 - 2311

FAX: 099 - 294 - 2309

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>



24時間子供SOSダイヤル

0120-0-78310 (全国統一フリーダイヤル)

かごしま教育ホットライン24

0120-783-574 (固定電話専用フリーダイヤル)

099-294-2200 (通話料有料)

教学一如



先生方の来所をお待ちしています。
教育活動に役立つ情報がきっとあります。

杜

「教学一如、学び続ける教職員に」



県総合教育センター

所長 大久保哲志

昨今、子どもたちの活躍はめざましい。そして、その姿は驚きをもって受けとめられ、報道されている。大人顔負けの活躍をしている子どもたちの例は、枚挙に暇がない。もちろん、かつてもあふれる才能を持ち合わせた子どもは多かつたに違いない。ただ、子どもの能力に大人が制限をかけていただけではなかつたか。しかし、今は、その能力を飛躍させる環境が整ってきている。大人を凌駕する才能を開花させている姿を見ると、本当に頼もしい。

学校に目を転ずれば、子どもそれぞれが違った能力を有しており、教師の想像を超えた能力を発揮する子どもも少なくない。そもそもすべての子どもは、どんな能力かは分からないが、何かしらの秘めたる能力を持っている。教師が職務を遂行する上で脅威を感じるのは、多岐に渡る膨大な仕事量ではなく、計り知れない能力をもつ子どもの前に立つことではないか。

簡単な心構えでは対峙できない。宝石の原石のごとき子どもたちだ。磨き方を間違えれば輝きを損ねかねない。その不安と責任を痛感しつつ、一人一人を見極め、磨いていかねばならないのだ。無限の可能性を秘めた子どもを相手に、教師はどう臨むべきか。

教師は、これまでも指導に当たって、教科等に関する高度な専門的知識や実践的指導力を身に付けようと悩み奮闘してきた。だが、何よりも大切にすべきことは、教師自らが現状に満足せず、学び続けることではないか。自らの持つ知見や経験に頼るだけで、新たなことに挑戦しようとしてもいない教師に、子どもは魅力を感じないだろう。

子どもの前に立つ教師は、立ち止まることなく、自らを成長させていくことが求められる。学び続ける者こそ人に教えることができるのだ。子どもは、教師のそんな姿を厳しい目で見つめているのだから。

教育センターに「教学一如」の碑があることの意義は、そこにある。

子供たちの学校適応感が分かるよ。

比較用「学校楽しいーと」



「比較用『学校楽しいーと』」とは？

- 「学校楽しいーと」は、子供の学校適応感といじめに関する内容を自己評価で回答する質問紙です。
- 「比較用『学校楽しいーと』」は、子供が過去回答した結果と比較・分析することができます。学校適応感がどのように変容したかを分析することで、適切な支援を検討することができます。

学校楽しいーと

— 中学生用 —



これから、あなたが学校の生活の中で思っていることについて質問します。
質問は、全部で4項目あります。よく読んで、自分の気持ちや考えに当てはまる数字一つ
の○を付け、回答欄にその数字を記入してください。
それでは、下の欄に必要な事項を記入してください。記入が終わったら、1ページから2
ページまでの質問に回答してください。終わったら、○の付け忘れや数字の記入もれがないか確認してください。

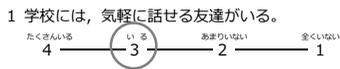
■ 学年・組・出席番号 () 年 () 組 () 番
■ 氏名 ()

中学生用

質問紙は
小学生用（低学年・高学年）
中学生用、高校生用があります。

記入の方法は？

- 全部で26問あります。
- 質問に対する回答を選択肢の中から1つ選びます。



- 所要時間
小学生 10～20分程度
中・高校生 10分程度

データ入力

- 児童生徒の回答をExcelに入力します。
- 所要時間は40人を入力するのに30分程度です。

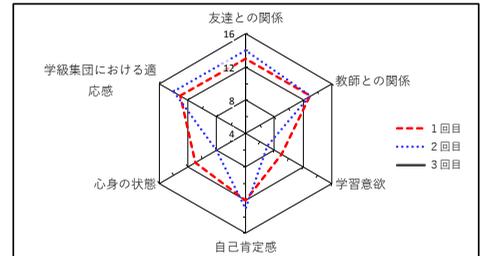
データ出力

- 結果はレーダーチャートと下位項目で表示され、個別に出力ができます。
- 子供の学校適応感の変容を把握でき、的確な支援を図ることができます。

比較用「学校楽しいーと」 個票

1年 2組 1番	氏名	大原 台
1回目 実施日	平成 29年 5月 28日	
2回目 実施日	平成 29年 9月 11日	
3回目 実施日	平成 年 月 日	

観点	1回目	2回目	3回目
1 友達との関係	13	14	
2 教師との関係	13	13	
3 学習意欲	9	7	
4 自己肯定感	12	13	
5 心身の状態	11	8	
6 学級集団における適応感	13	14	



観点	質問	1回目	2回目	3回目	観点	質問	1回目	2回目	3回目
友達との関係	1 学校には、気軽に話せる友達がいる。	4	4		教師との関係	2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。	3	3	
	8 学級には、気軽に会話ができた。遊びに誘ってくれたりする友達がいる。	3	4			9 学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。	3	3	
	14 学校には、自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる。	3	3			15 学校には、自分が間違えや失敗しても、きちんと話を聞いてくれる先生がいる。	3	3	
	20 自分が困っているときに助けてくれたり、協力してくれたりする友達がいる。	3	3			21 学校の先生たちは、自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。	4	4	
学習意欲	5 授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。	2	2		自己肯定感	4 委員会活動や(当番)活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。	3	4	
	12 授業中は、先生の話をよく聞いている。	3	2			11 学校行事の計画や準備をやり遂げたこと、「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	3		
	18 授業中、自分から進んで学習に取り組んでいる。	2	2			17 自分には、自分なりのよいところがあると思う。	3		
	24 学習した内容をきちんと理解するための、自分なりの学習の仕方がある。	2	1			23 他人から好かれている方だと思う。	3		
心身の状態	6 落ち込むことがある。	3	2		学級集団における適応感	3 学級の中にいると、明るく楽しい気持ちになる。	3		
	13 おなかが痛くなったり、下痢をしたりする。	3	3			10 学級のみんなと一緒に学校行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。	3		
	19 頭が痛くなる時がある。	2	1			16 この学級の一員でよかったと思うことがある。	3		
いじめ	7 友達から物を隠されたり、暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	3	4		MEMO	22 学級は、目標やルールが大切にされているので、よく過ごせる。	3		
	25 友達が悪くなる時がある。	3	2						
	26 友達から悪口を言われたり、無視されたりしてつらい思いをすることがある。	4	4						

「心身の状態」の観点が低いことは「学習意欲」の観点と関係していることが考えられます。学習面でどのようなことに困り感を抱いているのかを把握した支援を図ることが大切です。



SNSを利用する子供たちの指導・支援に役立つよ。

「SNSチェックシート」



「SNSチェックシート」とは？

- 「SNSチェックシート」は、SNSの利用状況と、ルールや負担感などの心理状態を五つの観点から把握できる質問紙です。
- いじめ・ネットいじめや不登校の原因となる人間関係のトラブルの未然防止、豊かな人間関係づくりの指導・支援、教育相談体制の充実に役立ちます。

「SNSチェックシート」
インターネット利用（SNS）に関する質問紙（中学生用）

■ 学年・組・出席番号 () 年 () 組 () 番
■ 氏名 () ()

○ これから、あなたのSNSの利用（LINE、カカオトークなどの文字や絵文字（スタンプなど）を使ったメッセージ交換）について質問します。よく読んで、最もよく当てはまる数字一つに○を付け、回答欄にその数字を記入してください。
○ 利用していない場合は答えてくなくてもいいですが、学年・組・出席番号・名前を記入してください。

中学生用

質問紙は、小学生用（高学年）
中学生用、高校生用があります。

記入の方法は？

- 全部で20問あります。
 - 質問に対する回答を選択肢の中から1つ選びます。
- (1) あなたは、普段、LINEなどのSNSを週にどれくらい利用していますか。
ほぼ毎日使う (1) ときどき使う (2) あまり使わない (3) ほとんど使わない (4) (月に数回) (月に数回)
- 所要時間
小学生 10～15分程度
中・高校生 10分程度

データ入力

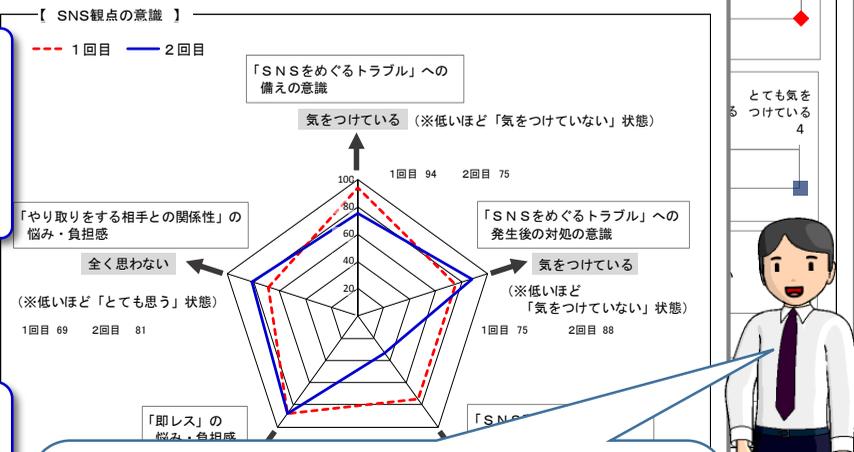
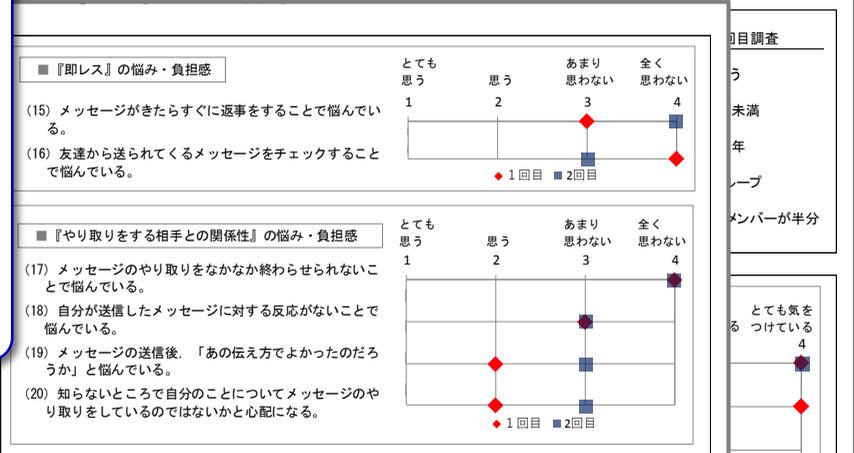
- 児童生徒の回答をExcelに入力します。
- 所要時間は40人を入力するのに20分程度です。

データ出力

- SNSの利用状況が点グラフとレーダーチャートで表示され、個別に出力ができます。
- SNS利用について、的確な支援を図れます。

「SNSチェックシート」 - 個票 -

1年 1組 1番	氏名	大原 台
1回目	平成 29年 5月 28日	
2回目	平成 29年 9月 11日	



「SNS利用のやり取り」の親和性を感じるように変容が見られることから、SNS利用の依存性が心配されます。対策の一つとして、自分の気持ちや考えを伝え合える活動の実施が考えられます。



